

令和8年度学校経営計画書

学校名 三次市立吉舎中学校
学校長名 住岡田 幸乃

I 学校の状況

学級数	普通学級3 特別支援学級2	生徒数	普通学級51 特別支援学級6	教職員数	常勤者 15名 (県費 17名)
メールアドレス	kisa-j@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/junior/kisa-j/				

II 学校教育目標

- 吉舎中学校区小中一貫教育目標
「自ら学び 考え 自立した行動ができる『きさ』の子ども」の育成
- 吉舎中学校教育目標
志高く学び 地域に貢献する生徒の育成

めざす生徒像

- 志ある生き方を求め 感謝する心をもった生徒
- 自分の意見をもち 表現できる生徒
- 故郷を愛し、貢献する生徒

III 使命・存在意義（ミッション）

- 「学ぶ意欲」と「地域愛」を育み、主体的に社会や地域に貢献する人材を育成する。

めざす学校像（ビジョン）

- 輝け 吉舎中！ ～挨拶・笑顔 花と歌声のあふれる学校～
 - ・安心して学べる学校（学びたい物的環境、人的環境の整った学校）
 - ・生徒の可能性を広げることができる学校（なりたい自分になれる自分の幅を広げることができる学校）
 - ・保小中高、地域の連携の要となる学校（吉舎中学校区コミュニティ・スクールの推進）
（連携を通して、思いやり、誇り、自信、憧れ、見通し、地域愛を育てることができる学校）

IV 重点事項（努力点）本校で育成しようとする資質・能力

- 学ぶ意欲を育てる環境づくり…「思いやり」「承認」「規範意識」の育成
- 学ぶ意欲を育てる授業づくり
 - ・「主体性」の育成＝（自ら判断・決定し、最後まで責任持って行動する態度）
 - ・「コミュニケーション能力」の育成＝「聴く力」「質問力」「表現力」「対話力（自己・他者）」
 - ・「志向性」の育成＝（なりたい自分へ挑む力）

V 中心課題・行動規範

- 「生徒の自律のためになるか、ならないか」で主体的に判断・挑戦し、行動する自律した教職員
- 目標となるリーダー
 - ・人の先頭に立って行動し、模範を示すことができる教職員
 - ・生徒の思いを受け止め、厳しくも温かい指導のできる教職員
- 自分の行動に自覚と責任を持つ教職員
 - ・不祥事を許さない教職員 指摘しあえる教職員 協働しあえる教職員
- 愛校心、地域愛をもつ教職員

VI 現状分析

外部環境	<p>【支援的要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇地域学校支援者の存在 <ul style="list-style-type: none"> ・吉舎町（よきやどり）まちづくり検討委員会 ・吉舎町自治振興連合会 【よっしゃきんさい】 ・青少年育成吉舎町民会議との連携 ◇県教委・市教委によるブランドデザイン及び具体的施策 ◇みよし学びの共創プランの推進 ◇「きさ」小中一貫教育推進協議会での連携 ◇保・小・中・高連携 ◇生徒の活動の積極的発信 ◇空調等の学習環境整備 	<p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇生徒の進路実現を目指し、チームワークを意識した教職員 ◇生徒指導の迅速・組織的対応 ◇自治活動を中心とした様々な活動に積極的に取り組む生徒の存在 ◇学校・学年行事、PTA活動、部活動等に協力的な保護者 ◇i-check「発信力」「社会参画」「学級の絆」「学習習慣」が良好である ◇中中連携（近隣に同規模の中学校がある） 	内部環境	<p>【支援的要因と強みを生かした取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの推進（学校・地域・保護者との協働教育） ・「地域できさの子どもを育てる」保小中高及び関係校連携教育の取組 ・部活動体制や学校行事やPTA行事等の見直しによる教育活動の焦点化 ・地域との交流及び外部人材の活用 ・生徒の成功体験につながる体験活動やボランティア活動の活性化 ・感動体験 ・積極的情報発信（通信、HP、新聞・テレビ）と公開
	<p>【阻害的要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子育てに不安を感じている家庭の存在 ◆教材研究や生徒と接する時間等の確保の困難性 ◆校舎・体育館等の施設・設備の老朽化 ◆講師の兼務校増で時間割編成が困難 	<p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆教職員が組織的に指導していく意識等の格差 ◆家庭学習（復習・予習）を計画的にできない生徒が多い ◆考えが伝わるように根拠を明確にして書くことや適切な表現で説明する力が弱い ◆家庭学習の習慣が身につけていない ◆i-check「対人ストレス」「友だちの支え」「家族の支え」のスコアが低い 		<p>【弱みを克服し、阻害的要因と回避する解決策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導（指導方法や教材・教具の工夫、ICTの活用） ・自学力の育成（家庭学習） ・一人一授業研究を通して「主体的・対話的で深い学び」の授業改善 ・学力・生活力向上のための小中連携 ・自己表現の場の設定（書くこと・説明する力の育成） ・コミュニケーション能力の育成 ・生徒会委員会活動の活性化 ・行事等の取組を通じた集団づくり ・連携の取組の焦点化 ・行事計画の見直し

生きる力 学びの、その先へ

みよし結芽人～幸輝心～

広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力の育成

「自己を認識し 自分の人生を選択し 表現することができる力」

（自己認識 ⇒ 自己開示 ⇒ 自己表現 ⇒ 自己実現）

- 自立** 生徒及び教職員の「安全・安心」を基盤とした「チーム学校」

 - ・すべての生徒にとって「魅力ある学校」とする学校再配置（保小中高連携、関係校連携）
 - ・不祥事根絶と未然防止、風通しの良い職場環境
- 共創** 生徒の主体性と教職員の指導性の向上

 - ・カリキュラムマネジメント（新コア・カリキュラムの試行と改善・深化）
 - ・授業の充実・深化（主体的・対話的で深い学び）
- WB** 生徒・教職員・保護者・地域のウェルビーイングの向上

 - ・学校と地域のパートナーシップ（⇒コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施）
 - ・一人一人のアップデート
 - ・関係性の向上と拡充